

ならやまトーク・投句 (陽春編)

コロナ菌のたりのたりと春の街

岡田安弘

(蕪村に叱られそうだが、思わずできてしまったと。新型コロナウィルスに街は閑散、世間は不景気。のたりのたりは、ご免蒙りたいが。)

梅が香やコロナフリーの深呼吸

古川祐司

(ならやまの活動は自粛とて、梅林には人の気配は無い。新型コロナの心配も無さそう。梅の香を胸いっぱい深呼吸する)

松明に春呼ぶ祈り二月堂

藤原 勲

(創始以来1269回、不退の行として続くお水取り。天災、反乱、疫病は国家の病。南無観世音 国家安穩、世界平和、コロナ退散)

梅林や紅白の雲湧くがごと

藤原 勲

(月ヶ瀬辺りか、谷間から梅の香とともに、花の雲が湧き上がる。いつもながらの名調子、一息に詠んだりリズム感がいい)

明神山奈良の都はかすみけり

阿部和生

(2月例研、明神山の展望台から望む世界遺産は、もう春めいて霞む)

平城山は寂しくあらん朝霞

阿部和生

(ならやまの活動は自粛。梅が咲き、温室は空しく種まきを待つ)

投句歓迎 (古川まで)

卒園式子守の思い出重なりて

千載輝重

(成長した孫の晴姿、思い出の情景がオーバーラップする好々爺)

雪汁の水路に溢れ唄ひけり

阿部和生

(北国の故郷は過疎の村。田圃の水路は、雪解け水が勢いよく流れている。そろそろ種籾を浸すころか。豊作の期待に胸が膨らんだものだ)

鶯の声いきいきと里の朝

鈴木未一

(実りの森、節回しもすっきり上達、のびやかな谷渡りの声が響く。「ホーホケケキヨ ケキヨケキヨケキヨ・・・」なんと十二連発)

果樹苗にあと幾年と傘寿笑

阿部和生

(実りの森、果樹苗を植えて、桃栗3年柿8年・・・ 作者は傘寿)

梅が香を独り占めする野守かな

古川祐司

(今日も、ならやまで独り作業するKさん。周りに梅が一段と薫る)

梅が香に自転車押して親子連れ

古川祐司

(自転車道沿いの梅林は満開。急がずゆっくり楽しんで行って下さい)

閑吟にうつろふ春やデカメロン

古川祐司

(高齢者は外出を控え自宅に塾居。デカメロンに倣い閑吟また苦吟)